

平成 30 年度 東京都内湾水生生物調査 12 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 30 年 12 月 21 日に稚魚調査を実施した。天気は快晴で、気温 11.8～12.4℃、調査地点の風は弱く、海は静穏であった。調査当日は大潮で、干潮が 9 時 48 分、満潮が 15 時 27 分であった（気象庁のデータ）。

魚類の種類数は今年度の調査で最も少なく、10 月調査時に確認された魚種の多くは、成長に伴い深所へ移動したものと考えられる。また、アユやウキゴリ属の仔稚魚も確認された。

2018/12/21	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	9:23-10:14	10:36-11:32	12:07-13:32
水温(℃)	13.1	13.5	13.6
塩分(-)	20.8	28.8	29.7
透視度(cm)	>100	85	70
DO(mg/L)	6.6	7.0	7.9
DO飽和度(%)	71.9	79.9	91.0
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.2	7.8	7.9
水の臭気	下水臭(弱)	無臭	無臭
備考	下げ潮時から最干時に調査を行った。 干潟はほとんど干出しなかった。 水の透明度は非常に高かった。	上げ潮時に調査を行った。 水の透明度は高く、汀線付近の礫上にはアオノリ類が生育していた。	上げ潮時に調査を行い、干出面積は今年度の調査で最も狭かった。 汀線近くの海上では、多くのカモ類が休息していた。

●主な出現種等（速報のため、種名などは未確定）

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	マゴチ(r)	ヒメハゼ(+)	アユ(r)
		ウキゴリ属(r)	ヒメハゼ(r)
			アシシロハゼ(r)
			チクゼンハゼ(r)
魚類以外	ニホンイサザアミ(r) エビジャコ属(r)	エビジャコ属(+) イソコツブムシ属(r)	ニホンイサザアミ(G) クロイサザアミ(c)
備考	他にクロイサザアミ、ミソオビクーマが採取された。	入網した礫にはアオノリ類が着生していた。	他にシオフキガイ、アキアミ、シラタエビが採取された。

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

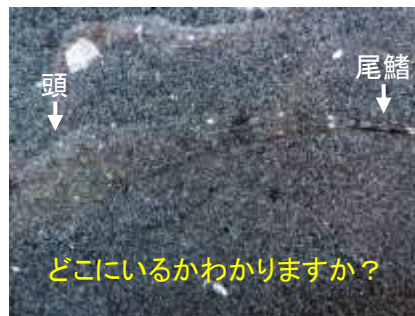
城南大橋西詰めにある干潟。干出面積は今年度の調査で最も狭かった。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm



内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は 4~7 月で、採取された個体は今年生まれたもの。10 月調査で採取された個体は体長 4cm 程であったので、順当に成長していた。普段は砂に潜っており、体色は、調査場所の砂の色にそっくりであった。



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応し、体色を変化させる。魚類の稚魚などを捕食することが知られている。



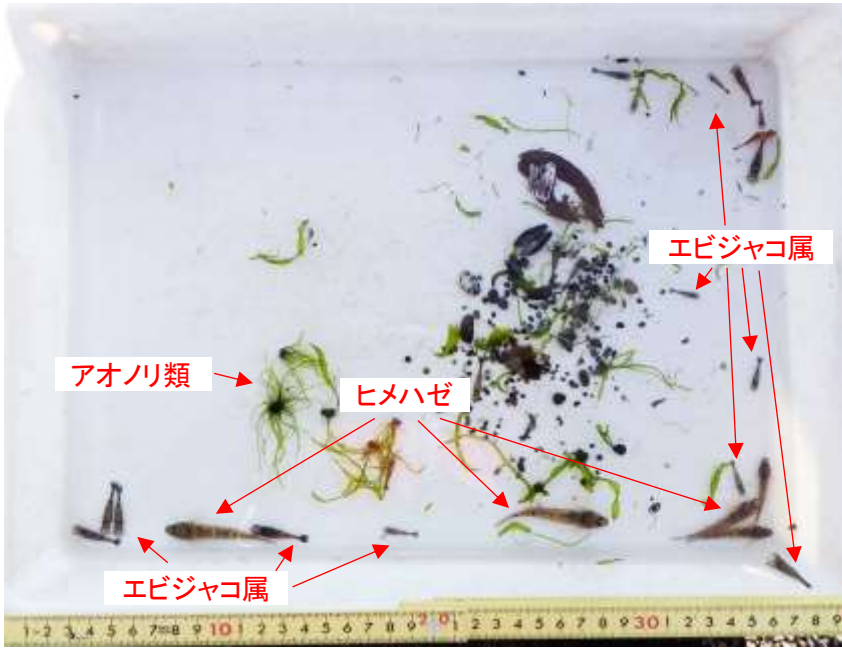
小型の甲殻類で、体長は 7mm 程度。長い尾節が特徴である。日中は砂泥中に潜っているが、夜は海面近くに浮上して餌をとる。



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。ニホンイサザアミは体長 10mm 程、クロイサザアミは体長 15mm 程になる。クロイサザアミは、腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。



お台場海浜公園 採取試料



水際数メートルで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm



全長は 9cm 程になる。内湾や河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。小型甲殻類や二枚貝を食べる。



河川の中流～下流に生息する。産卵期は冬～早春。調査時期は、ウキゴリ属の稚魚の出現時期としては早い。干潟域で見られる稚魚は、ウキゴリとスミウキゴリの 2 種である。



解説は、城南大橋を参照。お台場では、比較的大型の個体が採取された。



ダンゴムシやオオグソクムシに近い仲間(等脚類)。体長は 5～8mm で、体を丸めて球状になることができる(右上図)。体の色には変異が多く、石の下や海藻の中などに生息する。



アオサの仲間(緑藻類)。東京湾湾奥の河口域の汽水域では、スジアオノリ、ボウアオノリ、ヒレアオノリ等が生育する。お台場海浜公園では、秋季～春季に目立つようになる。

葛西人工渚(東なぎさ) 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm



川を遡上する前の稚魚。産卵は夏から秋に河川中流の砂礫底で行われ、孵化後、卵黄を吸収しながら海に流下する。干潟域は、河川を遡上する前に利用している。採取された個体は、この時期にしては体長が大きかった。



マハゼに似るが、うろこがやや粗く、体側には白色の横帯がある。初夏～秋にかけて、河口域の沈石や貝殻の下面に産卵する。小型の甲殻類を食べる。
※スケール 1 目盛:0.5mm



河口付近の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。エドハゼによく似ているが、下顎の腹面にひげ状の突起がある。東京湾では、湾奥よりも湾央の千葉県側の砂質干潟でよくみられる。



殻長は5cm程になる。内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻の色は、白色から紫褐色まで変異が多い。



内湾に生息するサクラエビの仲間。体長は4cm程。触角が赤いことから、新潟県では「あかひげ」と呼ばれる。



スジエビ類よりも大型で、体長7cm程になる。汽水域に生息しており、触角が青いことで他種と簡単に見分けられる。